

実証運行における実証項目

1. 五泉市地域公共交通総合連携計画における数値目標

数値目標		現況(平成20年度)	初年度(平成22年度)	2年目(平成23年度)	3年目(平成24年度)	
1	新たな公共交通の満足度 1	10.5%	30.0%	40.0%	50.0%	
2	新たな公共交通の利用者数 2	全体	345人/日	343人/日	364人/日	384人/日
		基幹バス	-	164人/日	168人/日	171人/日
		デマンド乗合タクシー	-	179人/日	196人/日	213人/日
3	新たな公共交通の収支率 3	全体	33.0%	31.7%	34.0%	36.1%
		基幹バス	-	40.3%	38.9%	39.7%
		デマンド乗合タクシー	-	27.8%	31.6%	34.3%
4	新たな公共交通及び生活路線バスの経常損失額 4	7,023万円	8,622万円	6,288万円	6,149万円	

基幹バスの収支率は車検費用を含めないもの

2. 評価項目

評価項目	評価の視点	評価の方法	改善策
満足度 1	基幹バス・デマンド乗合タクシー共通 目標はクリアされたか？	利用者及び住民等に対し、満足度調査を実施する。	満足度調査に基づき、運行方法等の見直しを検討する。
利用者数 2	基幹バス・デマンド乗合タクシー共通 目標はクリアされたか？	利用実績による。	運行方法を見直すとともに、利用説明会等により事前登録者を増やす。
収支率 3	基幹バス・デマンド乗合タクシー共通 目標はクリアされたか？	利用実績による。	利用説明会や協賛金制度の導入など、収入増に向けた施策を検討する。委託料やその他経費に無駄がないか、経費削減策を検討する。
経常損失額 4	基幹バス・デマンド乗合タクシー共通 目標はクリアされたか？	利用実績による。	利用説明会や協賛金制度の導入など、収入増に向けた施策を検討する。委託料やその他経費に無駄がないか、経費削減策を検討する。
運行日	基幹バス・デマンド乗合タクシー共通 ニーズにあったか？	利用者及び住民等に対し、満足度調査を実施する。	ニーズが多い日は追加、利用が少ない日は運休を検討する。
運行時間帯	基幹バス・デマンド乗合タクシー共通 ニーズにあった時間帯に運行したか？	利用者及び住民等に対し、満足度調査を実施する。	ニーズが多い時間帯は追加、利用が少ない時間帯は運休を検討する。
運行ダイヤ	基幹バス・デマンド乗合タクシー共通 ダイヤどおりに運行できたか？	利用実績による。	恒常的にダイヤが遅れる場合は、運行ダイヤ・運行エリア・予約受付の見直しを検討する。
	基幹バス・デマンド乗合タクシー共通 朝・昼・夕によって異なる人数・利用目的等のニーズに対応できたか？	利用実績による。利用者及び住民等に対し、満足度調査を実施する。	ニーズが多く恒常的に対応できない場合は、車両の増車・大型化を検討する。
	基幹バス・デマンド乗合タクシー共通 利用者がいない便はあったか？	利用実績による。	ニーズが少なく恒常的に利用者がいない場合は、運休・委託料の見直しを検討する。
運行ルート・エリア	基幹バス ニーズにあった運行ルートだったか？	利用者及び住民等に対し、満足度調査を実施する。	ニーズに対して利便性が極度に低い場合は、運行ルート・バス停位置等の見直しを検討する。
	デマンド乗合タクシー ニーズにあったエリア分けだったか？(特に境界線付近)	利用者及び住民等に対し、満足度調査を実施する。	ニーズに対して利便性が極度に低い場合は、境界線の見直し・特区の新設を検討する。
運行台数	基幹バス・デマンド乗合タクシー共通 ニーズにあった運行台数だったか？	利用実績による。	ニーズが多く恒常的に対応できない場合は、車両の増車・大型化を検討する。また、恒常的に利用者がいない場合は、運休・委託料の見直しを検討する。
運賃	基幹バス・デマンド乗合タクシー共通 ニーズにあった運賃だったか？	利用者及び住民等に対し、満足度調査を実施する。	ニーズと極端にかけ離れている場合は、増額・減額を検討する。
	基幹バス 乗り放題券は適正だったか？	利用者及び住民等に対し、満足度調査を実施する。	ニーズと極端にかけ離れている場合は、増額・減額・販売方法などを検討する。
	デマンド乗合タクシー 回数券は適正だったか？	利用者及び住民等に対し、満足度調査を実施する。	ニーズと極端にかけ離れている場合は、増額・減額・販売方法などを検討する。
運行車両	基幹バス・デマンド乗合タクシー共通 ニーズにあった運行車両だったか？	利用実績による。	ニーズが多く恒常的に対応できない場合は、車両の増車・大型化を検討する。また、恒常的に利用者がいない場合は、車両の減車・小型化を検討する。